

「SS306 活動事業について」

背景

本プロジェクトのメンバーには、自衛隊での PKO 活動（カンボディア・東チモール・イラク）や、阪神淡路大震災に復興支援などで参加経験より、日本人（我々）が培って来た技術を使い戦火に苦しむ国の復興（インフラ整備）支援や、開発途上国の資源開発を中心とした経済成長のための重機オペレータ育成や育成指導者の育成など経済活性化の手助けを目的とする。また国内外での自然災害などに対して、自衛隊と協力し、震災後の復興に寄与するために設立する。

目的

- 1、国内・国外において発生した災害の復興支援を実施する。
- 2、国外の開発途上国において、鉱業・建設分野における重機オペレータ育成指導や若者雇用創出などを支援する。

詳細

- 1、国内・国外における災害発生に対して、自衛隊と連携し復興支援を実施。
災害発生後 72 時間は人名救助優先（自衛隊・消防・警察）であるためにその後 道路補修・ガレキの除去、そして民生支援として、給水・簡易入浴仮設トイレなどの支援を行う。
- 2、開発途上国の資源開発やインフラ整備などの実施にあたり、若者雇用促進のための技術・技能促進・人材育成（重機オペレータなどの訓練や、訓練にあたる指導者の育成）を行う。また同国に対する給水事業（安全な水の提供・井戸掘り）の支援も実施。

SS306 の通常業務として

- 1、災害復興時、共に活動する自衛隊に対する技術指導（重機オペレータに対する指導と整備員に対する指導を実施。重機オペレータには SS306 が実施。整備員については小松製作所との協力体制を構築しつつ、テクノレセン（小松市）と全国に広がる DB サービスマンから指導を受ける）
- 2、自衛隊との防災訓練や復興支援訓練を共同で実施。また自衛隊との共同で図上演習も行う（被災大小規模・離島・都市部・山岳部など）。効率性・安全性・必要調整事項・不足事項を見出す。特に実働が伴う場合には相当額の経費が必要。小規模・大規模を想定した使用経費のシミュレーションを行う。

- 3、各地方自治隊が実施する防災訓練に参加。
- 4、防衛省・消防署・警視庁・道路公団・海運業者・運送会社（全国）・スーパーマーケット（全国）などとの協力体制の確立・調整を実施（被災状況により発生後に規制される高速道路の優先通行の権限。船舶輸送及び燃料の確保が優先出来る協定を結ぶ他に国から各種規制事項に対して免罪符的な物を付与されるべき）
- 5、物資などを提供（有償・無償）してくれる協定企業の検索。
- 6、国内及び国際的な法律専門家との連携も必要。特に海外活動については、国連などが関与してくる可能性が大。また資機材の海外持ち出しも手続きが必要？（自衛隊は全て申請済み）

我々 Super Support306 は、建機メーカー小松製作所（株）との協力関係を結びつつ（コマツテクノトレセン・コマツレンタル・コマツ建販）、復興支援や人材育成を通じた社会貢献活動を行って行く。